

DICエステート株式会社 様

User Profile



DICエステート株式会社
所在地：東京都中央区日本橋
3-7-20
設立：1992年1月
資本金：100百万円
従業員数：90名(2016年3月期/
単体)
代表取締役社長：小出 修

概要：印刷インキや有機顔料などで世界トップシェアをほこるファインケミカルメーカー、DIC株式会社の100%子会社として1992年に設立。福利厚生をはじめ、受付や警備、保険、不動産などに関連するさまざまな業務をDICグループの各企業から受託。縁の下の力持ちとして同グループを支え続けている。

URL：
<http://www.dic-global.com/>

本社ビルに届けられる宅配物の状況把握と管理のペーパーレス化を目指し小包追跡ソリューション「SendSuite® トラッキング・オンライン」を採用
およそ1ヵ月というスピード導入で業務効率向上を実現

DICエステートはDICグループ各社から総務系の業務を受託していますが、その中のひとつに、本社ビル全体の郵便・宅配物を扱うメール室の運営があります。以前より同社は宅配物の受け取りについて、伝票をファイリングすることで管理してきましたが、本社ビルの建て替えを機にグループ全体でペーパーレス化を推進することになり、その対応が課題となっていました。そこで同社は、SaaSベースの小包追跡ソリューション「SendSuite® トラッキング・オンライン」を採用。およそ1ヵ月というスピード導入で、ペーパーレス化と業務効率向上を実現しています。

グループ全体に課された ペーパーレス化 月に2000件を超える 伝票の管理が課題に

DICエステートは、印刷インキやファインケミカル、ポリマなどの分野で世界トップクラスの企業であるDIC(旧:大日本インキ化学工業)の100%子会社です。同社はDICグループの各企業から福利厚生やその他総務系の業務を中心に受託しており、これらの企業がビジネスを円滑に進められるよう、さまざまなかたちでサポートを行っています。

DICの本社ビルは東京・日本橋にあります。ここにはDICおよびグループ企業10社が入居しており、約1300人が勤務しています。そのメール室の運営も同社が受託している業務のひとつで、ビルに届く郵便・宅配物の受付から社内配送、発送までを担当。メンバー20名が1日に約400通届く普通郵便と約100件届く宅配便・書留を処理しています。

これら届けられる宅配物や書留については、以前は紙ベースによる管理が行われていました。当時についてメール室の運営を担当する業務サポート部の課長 古田昌作氏は「伝票と受け取り日時やサインなどの情報をファイリングして保存していましたが、伝票がはがせないものについては荷物をコピー機まで持って行ってコピーを取るなど、その作業にはたいへん手間がかかり、誰もが簡単にできるものではありませんでした。また、紙ベースによる管理だったため、問い合わせへの対応を行う際にはたくさんある台帳をいちいちめくらねばならず、検索性

は非常に低いものでした」と振り返ります。

このような状況が一変したのは2015年のこと。同年には本社ビルの建て替えが行われたのですが、これに合わせて資料保管スペースの削減を目指し、グループ全体でペーパーレス化を推進することが決まったのです。業務サポート部 部長の秋月慎也氏は「これはメール室も例外ではありませんでしたので、紙ベースによる管理を止めて業務の電子化を進めることにしました。そのねらいとしては省スペース化はもちろんですが、業務の効率化や検索性の向上、そして手順を容易にすることで障がい者雇用の促進を図る意味がありました」と回想します。

バーコードを読み取って 各種情報を取得 低コストで迅速な導入が 可能な点も魅力

DICエステートでは、2015年末より業務の電子化の検討を開始。当初は伝票に記載されたバーコードに着目し、社内にあったバーコードリーダーとExcelを使ってペーパーレス化を実現しようと考えました。しかし、この方法は実際にやってみると手間がかかるばかりで思うような管理ができず、早々に挫折。元のアナログな管理から脱却できないまま、月日が経過してしまっていたといいます。

転機が訪れたのは2017年3月のこと。かねてより同社で利用していた郵便料金計器の更新のために訪れたピットニーボウズの営業担当から、小包追跡ソリューション「SendSuite® トラッキング・オンライン(以下、SSTO)」を紹介

DICエステート株式会社 様



されたのです。

「SSTOでは、荷物に固有のバーコードを読み取り、宅配会社・差出人・受取人の3項目を入力するだけで、クラウド上に登録されます。また、ハンディターミナルなど専用機器の購入・開発が不要で、スマートフォンやタブレットがあればバーコードを読み込んだり受け取りのサインをもらったりすることができ、取得した情報は普通のPCで管理できます。SaaSなのでコストを抑えながら迅速に導入可能な点も魅力で、これはまさに私たちが求めていたソリューションそのものでした」(秋月氏)

そこで同社はさっそく導入の検討を開始。実機によるデモを何回か見学した上で、2017年5月より試用をスタート。6月からは本格稼働と、スピード導入を実現しています。

業務は大幅に容易化、効率化 当初の目的であった ペーパーレス化も実現

DICエステートは日本において初めてSSTOを採用した企業となりましたが、導入の際に何かトラブルなどはなかったのでしょうか。

「SaaSなので、コストも時間もかけずスムーズに導入できました。導入に際して新たに購入したのはiPadが2台だけです。操作や設定、従業員への講習については、営業担当がマメに足を運んでフォローしてくれました」(古田氏)

取材時点(2017年8月)では、SSTOの本格稼働から2ヵ月しかたっていませんが、導入の効果は早くも現れているようです。

「バーコードを読み取れば伝票のファイリング



やコピーは不要。受け取りのサインも端末の画面上でできるようになりましたので、業務は大幅に容易化、効率化しました。おかげで作業におけるミスも減っています。また、問い合わせ対応についても、PC画面上で誰でもすぐに探し出せるようになりましたので、検索性は大いに向上しました。さらに、紙をとっておく必要もなくなりましたので、当初の目的であったペーパーレス化も実現しています。加えて想定外の効果としては、端末に直接サインをすることが珍しいためか、グループ企業の社員から声をかけてもらうことが増え、コミュニケーションの活性化にもつながっています」(古田氏)

受付や備品などにも 管理の幅を広げ さまざまなシーンで利用したい

DICエステートでは今後、SSTOのさらなる活用を目指しており、バーコードを自社発行することで、伝票のない宅配物のみならず、受付や備品などにも管理の幅を広げ、さまざまなシーンで利用していきたいと述べています。

最後に、今回の導入についてピツニーボウズへの感想をうかがったところ、古田氏からは「最初から最後まで丁寧に対応していただき感謝しています。今回の導入により、本社ビルに届くすべての宅配物をメール室で管理できる環境が整いつつあります。これはセキュリティ面でも大変重要なことですので、引き続き支援をお願いします」と感謝のことばをいただきました。

SSTO 導入事例



業務サポート部
部長
秋月 慎也 氏



業務サポート部
課長
古田 昌作 氏